

*オミクロン株がすごい勢いです。気を付けましょう。

/// I N D E X ///

- ・ ISO 情報……………ISO14075(ソーシャル LCA)と ISO59014(二次材料)の進捗
- ・ LCAF からお知らせ…2022年1月28日(金) LCA 初級検定を実施しました。
2022年2月26日(土) LCA 中級検定があります。
- ・ 編集後記……………LCA 日本フォーラム表彰がありました。

■ ISO 情報 ISO14075(ソーシャル LCA)と ISO59014(二次材料)の進捗状況 ■

私がエキスパートとして作成作業に参加している二つの新しい国際標準規格の進捗を報告します。以下、私の個人的な感想です。

○ISO14075 (ソーシャル LCA)

昨年7月から作業が始まった新しい規格です。1月11日～14日毎晩3時間の会議でした。LCAの国際標準規格を発行している TC207/SC5 で行っているの、目的と調査範囲の設定、インベントリ分析、影響評価という LCA の枠組みを維持することになっています。Social の被害を受ける労働者や地域の人などのカテゴリを決め、企業の活動が与える被害を評価することになります。とここまででは、規格作りに参加している人の共通の理解なのですが、実は既にソーシャル LCA (S-LCA) のガイドラインを発行している二つのグループのせめぎあい(合意形成?)になっています。

一つは“Guidelines for S-LCA of Products and Organizations 2020”というガイドラインを発行している国連環境プログラム(UNEP)のライフサイクルイニシアチブ(Life Cycle Initiative, UNEP)のグループです。2001年の発足当時は私も副議長を務めました。UNEP が事務局を務めていますが、各国の承認があるわけではなく当時も今も LCA に関心がある人たちの自主的な活動になっています。このガイドラインは、上述の LCA の4つのフェーズを割合忠実に守っていて、企業活動による資源消費や排出物のインベントリ分析を行い、それらがソーシャル(社会)に与える影響を評価しようとしています。たとえば、VOC の排出による労働者の健康影響をソーシャルとして捉えるわけですが、この例は既に LCA の環境影響評価の枠組みに含まれていますので、LCA の影響評価との重複が問題になります。

もう一つは、“The Roundtable for Product Social Metrics(2018-2020)”というガイドラインを発行している民間企業のグループです。こちらには、ドイツの化学企業に勤務している TC207/SC5 の議長がいます。また、私の古い付き合いである Simapro の開発者がいます。こちらの方法は、企業の活動の結果であるインベントリを、たとえばコンプライアンスを遵守していることを平均点としてそれより良いか悪いかを5段階で評価します。企業が自らの社会的行動を自分で評価し、社会的活動を推進する方法になっています。

さて、この二つをうまく組み合わせることができるのでしょうか? いったんは、後者の方法を前者の一部として整理することができたかのように思われましたが、ここで私が爆弾発言「ちょっと待て、それで LCA の4つのフェーズを守っていることになるのか?」と言い出したので、皆で舌を噛むような言い訳が始まり、結局、規格の文書の下書きを作るグループを発足させて議論をまとめてもらうことになりました。ワーキングドラフトの段階では良く使う方法です。次回の会合が4月25日に予定されています。そこで良い案が出てくることを期待しています。

○ISO59014(二次材料)

昨年5月から始まりました。もともとは2次金属を製造時の社会的問題(アフリカの児童労働や労働者の健康被害など)に対するトレーサビリティの強化を目指す報告書が元になって提案されたのですが、ISO/TC207 への提案時に特定の産業の規格は作らない約束なので「2次材料全般」に広がり、さらに TC323(サーキュラーエコノミー)との合同作業(Joint Working Group: JWG)になって、ますます規格作りが混迷になっています。1月26日と27日の2晩行われた作業でも規格の基本的な考え方を示す Principle(原則)に、「企業はポストコンシューマー製品からまず

コンポーネントを取り出さなければならない」という文章が提案されています。これは、TC323（サーキュラーエコノミー）からの参加者が、組み立て製品のリユースや部品の再利用に関心がある人が多いためです。私は「この規格は2次材料全般に適用できなければならない。たとえばガラス瓶や紙製品のコンポーネントって何？」と柔らかく（嫌味のように）反論しています。また同じく原則に「企業は資源やエネルギーの消費量を少なくするようにマネジメントしなければならない」という文章が提案されてきたので「環境マネジメントはISO14001のような別の規格がある。本規格は二次材料に特化すべき」と発言したり、「こんなことを書くとダブルスタンダードになる。ISO規格の構成を良く見て重複を省くべき」と発言しています。

実は、この何でも盛り込みたいという発言は途上国の人から出てくることが多いのです。この規格を一つ買えば、なんでもわかる規格にしたいという要望です。それで最近の国際標準規格は重複が多く、どんどん厚くなる傾向があります。厚くなると規格文書の値段が高くなるのに。。。と思います。

■■ LCAF からのお知らせ ■■

○2021年度後期の初級検定を1月28日に実施しました。受験者は25名でした。

○2021年度の中級検定試験を2022年2月26日（土）に実施します。詳しくはホームページを
ごらんください。 <https://lcaf.or.jp/lcaf-intermediatetest202202.html>

■■ 編集後記 ■■

1月28日（金）の午後にLCA日本フォーラム表彰がありました。私は、昨年6月の総会で山本良一先生からLCA日本フォーラム会長を引き継ぎましたので、今回は初めての会長として表彰状を授与する役回りになりました。「ひょうしょうじょう。かいちょうしょう」と大きな声で言えたと思います。山本先生に「功労賞」を渡すときには、ほんとうにお疲れ様でしたと思いました。受賞者はLCA日本フォーラムのホームページに載っています。LCAFがお手伝いした仕事も多いです。 <https://www.lca-forum.org/commendation/index.html>

奨励賞の一つが日本LCA学会の「環境負荷削減貢献量定量化研究会」でした。今の主査の東京大学醍醐先生に表彰状を渡しました。賞の選考は選考委員会が行っていますので私は関与していませんが、2014年に私が主査で始めた研究会なので感慨深く思いました。

今年は例年に比べてもとても寒い冬のように思います。来週から冬季オリンピックが始まります。私はスキージャンプを楽しみにしています。いつだったか夏に札幌に行ったときに、大倉山のジャンプ台で夏も飛んでいる選手を見てびっくりしました。あの高い台から飛ぶ度胸がつく前はどこで練習するんだろうと思います。子供用のジャンプ台がどこかにあるのでしょうか？雪が降らない静岡で育ったので、雪を見ると自然にテンションが高くなります。困ったものだと思います。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本LCA推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで（読んで）ください)

〒71-0014 東京都豊島区池袋2-36-1

インフィニティ池袋8F52

電子メール：lcaf-contact@lcaf.or.jp

URL：<https://lcaf.or.jp/>